

## 主 文

- 一 被告らは、北九州市<以下略>「ミニクラブ・水晶」および同市<以下略>「クラブ・キヤッツアイ」において、別添楽曲リスト、同Ⅱおよび同Ⅲ各記載の音楽著作物を営業のために演奏してはならない。
- 二 被告らは、連帯して、原告に対し、金一、三四一万一、五〇〇円および内金一、一二九万九、五〇〇円に対する昭和五五年七月二五日から、内金二一一万二、〇〇〇円に対する昭和五七年五月一日から、各完済に至るまで年五分の割合による金員を支払え。
- 三 訴訟費用は被告らの負担とする。
- 四 この判決は仮に執行することができる。

## 事 実

(請求の趣旨)

主文と同旨。

(請求の原因)

### 一、(原告の著作権仲介業務)

原告は「著作権二関スル仲介業務二関スル法律」(昭和一四年法律第六七号)に基く許可を受けた我国唯一の音楽著作権仲介団体であり、内外国の音楽著作物につき各著作者より著作権ないしその支分権(演奏権、録音権等)の移転を受けてこれを管理し、国内における放送事業者をはじめレコード、映画、出版、興行、社交場、有線放送等各種の分野における音楽著作物使用者に対して使用許諾を与え、音楽著作物の適法な利用を円滑簡易ならしめると共に、右許諾の対価として著作物使用料規程に定める使用料をこれらの使用者から徴収し、これを内外の著作権者に分配することを主たる業となしている。そして原告は、現に別添楽曲リスト、同Ⅱおよび同Ⅲ各記載の音楽著作物(以下、これらを総括して「管理著作物」という。)について、それぞれ著作者より著作権の信託的譲渡を受けてこれを管理している。

### 二、(被告らの著作権侵害行為)

1 他人の音楽著作物(作詞・作曲)を公に演奏して使用する者は、法律に別段の除外規定のない限り、その著作物の使用について、著作権者の許諾を受け対価を支払う法律上の義務を有する(著作権法二二条、六三条参照)。これは入場料をとつて演奏する場合に限らず、カフェ、ナイトクラブ、スナック等社交場の経営者が音楽の演奏により直接あるいは間接に営利を目的とする場合にもすべてこれに著作権が及び、著作物使用者が許諾を得ないで著作物を演奏すれば、著作権侵害の責を免れない。

2 被告らは、共同経営のもとに、左のとおり各店舗を経営し、同店内において管理著作物に含まれる音楽を演奏し、もつて原告の音楽著作権の内容である演奏権を侵害した。即ち、

(1) 被告らは、昭和五〇年七月二〇日北九州市<以下略>において、スナック「ニューエメラルド」を開業し、その後昭和五一年一二月二〇日店名を「スナック・水晶」と変更したが、更に昭和五四年二月一九日同店の営業をカフェに変更し店名も「ミニクラブ・水晶」と改め、今日に至るまでこれを経営している。そして被告らは、前記昭和五〇年七月開業以来引続き今日に至るまでの間、毎日右店内でその営業時間中、原告の許諾を受けないで管理著作物に含まれる音楽を演奏し、これを来集した不特定多数の客に聞かせ、原告の音楽著作権の内容である演奏権を侵害した。

(2) 被告らは、昭和五一年一〇月二五日同市<以下略>においてカフェ「クラブ・キヤッツアイ」を開業し、爾来引続き今日に至るまでの間、毎日右店内でその営業時間中、原告の許諾を受けないで管理著作物に含まれる音楽を演奏し、これを来集した不特定多数の客に聞かせ、原告の音楽著作権の内容である演奏権を侵害した。

(3) 更に被告らは、昭和五三年三月二四日前同所同番地ニュー南国ビル一階においてカフェ「クラブ・ダイガーアイ」を開業し、爾来引続き昭和五四年四月三〇日廃業するまでこれを経営していたが、その間、毎日右店内でその営業時間中、原告の許諾を受けないで管理著作物に含まれる音楽を演奏し、これを来集した不特定多数の客に聞かせ、原告の音楽著作権の内容である演奏権を侵害した。

3 被告らは、右の各店舗において、それぞれ開店以来、管理著作物を使用して楽

団演奏およびピアノ又はエレクトーンあるいはギターによる生演奏をおこなっており、それは今日まで反復継続してなされている。  
被告らの右各店舗における生演奏は、毎日の午後六時半頃から深夜に及ぶ営業時間のうち、客入りの多い一定の時間帯に、来客の好みに合うその時々の流行の音楽あるいはいわゆるナツメロ曲を生演奏することによつて、店の雰囲気づくりをして盛りあげ、客を楽しませることを目的としておこなわれているものであり、右は、この種のクラブ、スナツクの店舗一般に共通する「通常の営業手段」であつて、これまで被告らが右各店舗の経営を維持し継続する上に、必要且つ不可欠な手段となつていたものである。

被告らは、従来、原告九州支部から再三にわたり、右各店舗における管理著作物の演奏について使用許諾手続の督促を受けながら、これを無視して右使用許諾契約を締結せず、終始無許諾で演奏を続けていた。しかもその間、原告の担当者が被告方に出向いて何回も面談し、被告らも前記店舗における音楽の使用状況、演奏者についての説明をしており、従来の継続的演奏の事実は今更否定しえないところである。

### 三、（差止請求）

被告らは、前記「ミニクラブ・水晶」および「クラブキャッツアイ」の各店舗において、現在も依然として管理著作物の演奏を継続している。しかして、被告らの右営業の性格上、音楽演奏不可欠なものであり、これまでに演奏された曲目の殆んどすべてが管理著作物に属する事実および従来の経過に徴すれば、将来更に著作権侵害行為を継続するおそれがあることは明らかである。よつて、原告は著作権法第一一二条に基き、被告らに対し、著作権侵害の停止ならびに予防請求として管理著作物の演奏の禁止を求める。

### 四、（被告らの不法行為）

被告らの前記二記載の各店舗の営業においては、いずれも客に対し飲食を提供するばかりでなく、店内の設備によつて客に音楽の演奏を聞かせているであり、その際使用する音楽は、クラブ、カフェ等社交場特有の雰囲気、来客の好み、その時々々の世間の流行によつて選ばれる歌謡曲、ジャズ、シャンソンなどの軽音楽でかつその殆んどが管理著作物ばかりであり、前記各店舗における一日平均の使用管理曲数は、「ニューエメラルド」、「スナツク・水晶」および「ミニクラブ・水晶」がそれぞれ延四五曲以上、「クラブ・キャッツアイ」が延六〇曲以上、「クラブ・タイガーアイ」が延四五曲以上に及んでいる。しかして、被告らは営利を目的とし、これらの軽音楽を営業時間間中絶え間なく演奏して店内に顧客を誘引するにふさわしい快適な雰囲気を醸成し、その営業を維持してきたものであつて、音楽著作物の利用は営業の不可欠的要素である。それ故右事業の経営者たる被告らとしては、音楽著作物の利用に際し他人の著作権を侵害することがないように相当の調査をなすべき義務があり、管理著作物を使用することについては原告の使用許諾を受け且つ原告が著作物使用料規程によつて決定した相当の使用料を支払う義務があるにもかかわらず、その開業以来今日に至るまで何らの相当の措置をとることなく無断で管理著作物を演奏使用していたものである。したがつて、被告らは故意又は過失により、前記各店舗において営業した全期間を通じ、継続して原告の著作権の内容である演奏権を侵害したものである。

### 五、（損害賠償請求）

原告は、被告らの右著作権侵害行為により、管理著作物の使用許諾の対価として徴収し得る使用料に相当する得べかりし利益を喪失し、これと同額の損害を蒙つたのであるが、その損害額の算定は次のとおりである。

１ 原告は、「著作権二関スル仲介業務二関スル法律」第三条第一項に基づき、昭和一五年二月二九日主務大臣の認可を受けて「著作物使用料規程」を定め、その内容はその後数次の変更を経たが、同規程のうち演奏の使用料の規定に関しては、昭和三五年五月三十一日の認可により料率に変更され、更に演奏の内、キャバレー、カフェー、ナイトクラブ、ダンスホール、喫茶店、ホテル等の社交場における演奏については減額した料率の規定が新設され、これらの規定の内容はその後料率自体には変更がなく、昭和四六年四月一日の認可による表現整理のための変更を経て現行の規程に踏襲されている。現行使用料規程によると、管理著作物の演奏の内、軽音楽一曲一回の「演奏会形式による演奏」の使用料は、定員、平均入場料、使用時間によつて類別区分された料金表により別表（一）のとおり定められており、これをカフェー、クラブ、スナツク等の社交場において使用する場合は、右演奏会形式による演奏の使用料の一〇〇分の五〇すなわち五割の範囲内で使用状況等を参酌して

具体的な使用料を決定することとされている。そして原告においては、使用状況等の参酌の方法として、①定員五〇〇名未満のものを更に一〇〇名単位で段階的に区分し、各社交場の客席数に応じて逓減することとしているほか、②平均入場料については、入場料金を明示しないクラブ、スナック等の場合は、当該社交場の営業料金中の一セット料金（飲食税、サービス料を含む）又は同相当額に三〇%を乗じた金額（テーブルチャージ、席料がある場合は更にその料金を加算した額）を入場料とし、③使用時間については、一曲一回の演奏五分以上一〇分未満の場合でも原則として五分未満として取扱うこととしている。

2 一方、被告らの前記各店舗の使用料算定上の参酌基準となる管理著作物の使用状況等は次のとおりである。すなわち、①「ニューエメラルド」および「スナック・水晶」は、いずれも定員五〇〇名未満、平均入場料五〇〇円以上一〇〇〇円満、客席数は一〇〇名未満、管理著作物の一日平均の使用曲数は四五曲、一か月平均の営業日数は二五日である。②「ミニクラブ・水晶」は定員五〇〇名未満、平均入場料二五〇〇円以上三〇〇〇円未満、客席数は一〇〇名未満、管理著作物の一日平均の使用曲数は四五曲、一か月平均の営業日数は二五日である。③「クラブ・キヤッツアイ」は定員五〇〇名未満、平均入場料二五〇〇円以上三〇〇〇円未満、客席数は一〇〇名未満、管理著作物の一日平均の使用曲数は開業日の昭和五一年一〇月二五日から同五二年四月三〇日までについては三二曲、同五二年五月以後については六〇曲、一か月平均の営業日数二五日である。④「クラブ・タイガーアイ」は定員五〇〇名未満、平均入場料三〇〇〇円以上三五〇〇円未満、客席数は一〇〇名未満、管理著作物の一日平均の使月曲数は四五曲、一か月の営業日数は二五日である。

3 そこで、前記使用料規程を被告らの各店舗のそれぞれの条件下における管理著作物の使用の場合に適用してその使用料を算出すると、別表（二）、（三）（但し、同表1の部分）、（四）（但し、同表1、2の部分）および（五）の各計算表に記載するとおりであり、すなわち、①「ニューエメラルド」および「スナック・水晶」については、いずれも一曲当りの使用料五〇円、一日四五曲分の使用料二、二五〇円、一か月（平均二五日）の使用料は五六、二五〇円。②「ミニクラブ・水晶」については、一曲当り九〇円、一日四五曲分の使用料は四、〇五〇円、一か月（平均二五日）の使用料は一〇一、二五〇円。③「クラブ・キヤッツアイ」については、一曲当り九〇円、昭和五一年一〇月二五日から六か月間について一日三二曲分の使用料は二、八八〇円、一か月（平均二五日）の使用料は七二、〇〇〇円、昭和五二年五月一日以後について一日六〇曲分の使用料は五、四〇〇円、一か月（平均二五日）の使用料は一三五、〇〇〇円。④「クラブ・タイガーアイ」については、一曲当り一〇〇円、一日四五曲分の使用料は四、五〇〇円、一か月（平均二五日）の使用料は一一二、五〇〇円となる。

4 したがって、被告らの前記著作権侵害に基づく損害額は、右の著作物使用料額を基準とし、右各店舗の一か月当りの使用料額に営業期間の月数を乗じて算定すべきものである。それによれば、①「ニューエメラルド」については、同店の前示一か月の使用料五六、二五〇円に前記昭和五〇年七月二〇日の開業日から同五一年一二月一九日までの営業期間の月数一七か月を乗じた金九万五、二五〇円であり、②「スナック・水晶」については、同店の前示一か月の使用料五六、二五〇円に前記昭和五一年一二月二〇日から同五四年二月一八日までの営業期間の月数二六か月を乗じた金一四万六、五〇〇円であり、③「ミニクラブ・水晶」については、同店の前示一か月の使用料一〇一、二五〇円に昭和五四年二月一九日から同五五年七月までの営業期間の月数一七か月を乗じた金一七万二、二五〇円である。④「クラブ・キヤッツアイ」については、同店の前示一か月の使用料七二、〇〇〇円に前記昭和五一年一〇月二五日から同五二年四月三〇日までの営業期間の月数六か月を乗じた金四万三、〇〇〇円、および同店の前示一か月の使用料一三五、〇〇〇円に前記昭和五二年五月一日から同五五年七月までの営業期間の月数三九か月を乗じた金五万二、六〇〇円であり、⑤「クラブ・タイガーアイ」については、同店の前示一か月の使用料一一二、五〇〇円に前記昭和五三年三月二四日開業以来昭和五四年四月三〇日廃業するまでの営業期間の月数一三か月を乗じた金一四万六、五〇〇円である。それ故、使用料相当額の損害金は右①②③④⑤を合計した金一、一二九万九、五〇〇円となるのであり、被告らは連帯して原告に対し右損害金を賠償する義務がある。

5 被告らは、本訴提起後も引続き今日に至るまで前記「ミニクラブ・水晶」および「クラブ・キヤッツアイ」を経営しており、その営業において、従前と同様管理著作物を無断使用し、原告の音楽著作権を継続的に侵害したので、原告は右侵害行

為により使用料相当額の損害を受けた。

その損害額の算定は以下のとおりである。

(一) 被告らの右各店舗の使用料算定上の参酌基準となる管理著作物の使用状況等は次のとおりである。すなわち、①「ミニクラブ・水晶」は昭和五五年八月一日以降は定員五〇〇名未満、平均入場料二五〇〇円以上三〇〇〇円未満、客席数は一〇〇名未満、管理著作物の一日平均の使用曲数は二四曲、一か月平均の営業日数は二五日である。②「クラブ・キャッツアイ」は昭和五五年八月一日から同五六年五月三十一日までは従前と同様であり、昭和五六年六月一日から同五七年三月三十一日までは定員五〇〇名未満、平均入場料三〇〇〇円以上三五〇〇円未満、客席数は一〇〇名未満、管理著作物の一日平均の使用曲数は二四曲、一か月平均の営業日数は二五日である。

(2) これを基礎としてその使用料を算出すると、別表(三) 2 および別表

(四) 2. 3. の各計算表に記載するのとおりであり、すなわち、①「ミニクラブ・水晶」については一曲当り九〇円、一日二四曲分の使用料は二、一六〇円、一か月(平均二五日)の使用料は五四、〇〇〇円。

②「クラブ・キャッツアイ」については、昭和五六年五月三十一日までは従前同様面当り九〇円、一日六〇曲分の使用料は五、四〇〇円、一か月の使用料は一三五、〇〇〇円および同五六年六月一日から同五七年三月三十一日までは一曲当り一〇〇円、一日二四曲分の使用料は二、四〇〇円、一か月の使用料は六〇、〇〇〇円となる。

(3) したがって、被告らの右著作権侵害にもとづく損害額は、右各店舗の一か月当りの使用料額に営業期間の月数を乗じて算定すべきものである。それによれば、①「ミニクラブ・水晶」については、同店の前示一か月の使用料五四、〇〇〇円に昭和五五年八月一日から同年一〇月三十一日までの営業期間の月数三か月を乗じた金一六万二、〇〇〇円であり、②「クラブ・キャッツアイ」については、同店の前示一か月の使用料一三五、〇〇〇円に昭和五五年八月一日から同五六年五月三十一日までの営業期間の月数一〇か月を乗じた金一三五万円および同店の前示一か月の使用料六〇、〇〇〇円に同五六年六月一日から同五七年三月三十一日までの営業期間の月数一〇か月を乗じた金六〇万円である。それ故、使用料相当額の損害金は右①②を合計した金二一萬二、〇〇〇円となる。

#### 六、結論

よつて、原告は、被告らに対し、右損害合計金一、三四一萬一、五〇〇円(その内訳は別表(六)の損害金算定表記載のとおり)および右の内金一、一二九萬九、五〇〇円に対する本件訴状送達の日から、内金二一萬二、〇〇〇円に対する訴変更の申立書送達の日から、各完済に至るまで法定の年五分の割合による遅延損害金の支払を求め、かつ、著作権侵害の停止ならびにその予防請求として管理著作物の演奏禁止を求める。

(被告らの答弁)

一、請求原因一の事実は不知。

二、請求原因二のうち、被告Aが昭和五二年六月二三日から現在まで原告主張の場所においてカフェ「クラブ・キャッツアイ」を開業している事実、被告Bが昭和五〇年七月二五日から同年九月三〇日までスナック「ニューエメラルド」を、昭和五三年三月二四日から昭和五四年四月三〇日まで「クラブ・タイガーアイ」を各開業している事実はいずれも認めるが、その余の事実は否認する。

三、請求原因三、四、五の事実はすべて否認する。

(証拠) (省略)

#### 理 由

一、原告が主張する場所において、被告Bが、昭和五〇年七月二五日から同年九月三〇日までスナック「ニューエメラルド」を、昭和五三年三月二四日から昭和五四年四月三〇日まで「クラブ・タイガーアイ」を各開業していたこと、および、被告Aが昭和五二年六月二三日から現在までカフェ「クラブ・キャッツアイ」を開業していたことは、いずれも当事者間に争いがない。

二、いずれもその成立に争いがない甲第五号証の二、第八ないし一十二号証の各二、第一三三号証の二、三、第一四四号証の二ないし四、第一九四号証の一ないし六、第二〇四号証の一、二、第二六四号証、第二七四号証の一ないし一八、第二八四号証の一ないし一二、第三一、三二四号証の各三、第四〇四号証、第四一四号証の一、二、第四二四号証、第四四四号証、証人Cの証言および弁論の全趣旨によつていずれもその成立を認める甲

